

四 ふくち寄席 in 上野焼春の陶器まつり 百年の歴史を誇る伝統がコラボ

上野焼春の陶器まつり期間中の4月29日に庚申窯主催の「寄席」が初開催されました。上野下小路集会所に設けられた高座を舞台に、落語家の桂かい枝さんと桂文鹿さんが公演。上野焼と同じく400年の歴史ある日本の伝統芸能・落語を楽しみに、約50人が町内外から集まり、満員御礼の大入りとなりました。



↑5代目桂文枝に入門し、20か国以上で英語公演もこなす桂かい枝さんの1席。

↓東京都からも役員が駆けつけ、新しい日立マクセル号の門出を祝った出発式。



多 平成筑豊鉄道「日立マクセル号」リニューアル 多様さと身近さ感じるデザインに一新

昨年から約1年にわたり運行してきたラッピング車両「日立マクセル号」が4月21日に塗装を一新してお披露目されました。車体には10種類以上の製品をかたどったロゴをあしらひ、身近なものづくりをアピール。塗装も赤色からピンクを基調とした配色に変更され、より一層華やかになった車両が新たなスタートを切りました。

↓期間中は天候にも恵まれ、各窯元では屋外での露店販売も多く見られました。



陶 第44回 上野焼春の陶器まつり 陶芸ファンが上野に集った3日間

上野焼協同組合13窯元による春の陶器まつりが4月28日から3日間開催され、昨年を上回る約6千人の陶芸ファンが上野焼陶芸館を訪れました。各窯の個性豊かな作品が所せましと並び、割引価格の商品を販売。来場者は一つひとつの作品の風合いを確かめるように手に取り、お気に入りの逸品を探していました。

道 南木菅原神社神幸祭 道真公にちなんだ梅の神紋を胸に

菅原道真ゆかりの南木菅原神社の神幸祭が5月2日から2日間行われました。境内と御旅所では、この日のために練習を重ねた4～15歳の7人の稚児が獅子とともに舞を奉納し、農繁期に向けて豊作を祈願。舞は明治20年代に始まったとされ、南木の伝統行事として絶えることなく今日まで受け継がれています。



↑クライマックスを迎え、奏楽にあわせて順に太鼓を打ちながら一列に並び稚児。

↓華麗な衣装の稚児が約800mの藤棚にさらなる彩りに加え、見守る周囲から歓声が上がりました。



祭 定禅寺「藤まつり」 祭事の日には満開迎えた藤棚

樹齢500年を超える定禅寺の県指定天然記念物「迎接の藤」。藤の豊かな香りに包まれる中、その満開と長寿を祝う藤まつりが4月29日に開催されました。住職や虚無僧、稚児の行列が厳かに境内を練り歩き、神酒や献笛で藤のさらなる長寿を祈願。晴天にも恵まれ、この日に合わせたかのように満開を迎えた幻想的な藤棚は多くの来場者を魅了しました。

子 弁城小に全国訪問おはなし隊が来校 子どもたちに絵本の世界をお届け

47都道府県を巡る講談社の「全国訪問おはなし隊」のキャラバンカーが全国公募を経て4月25日に弁城小へやってきました。車両横のカラフルな扉が開くと、絵本を中心に約550冊が並ぶ空間が登場。「この車、テレビで見た!」と興奮し、何度も借りに来る児童も見られ、1時間でそれぞれが4～10冊の本と出会いました。



↑全国に2台しかないキャラバンカー、全校児童82人がお気に入りを見つけました。

↓江戸時代から続くといわれる伝統の「甘茶かけ」を上野保育園の園児も体験。



伝 興国寺「花まつり」 伝統行事の甘茶に込めた感謝と願い

上野の古刹・興国寺で5月8日に「花まつり」が行われました。釈迦の誕生を祝って催され、古くから地域で愛されてきたこの法要。釈迦生誕時に空から甘露が降った伝承に由来し、花御堂内の釈迦像に甘茶を注ぎます。参拝者は無病息災に効くと伝わる甘茶を口に、感謝と願いを胸に味わっている様子でした。